

平成22年度 第6回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会会議議事録

開催日時：平成22年12月16日（木）14:00～16:30

開催場所：中標津町役場 301会議室

参集者：委員 21名中 19名出席

挨拶 中標津町長 小林 実

皆さま大変お疲れ様でございます。一言ご挨拶をさせていただきますけれど、年の瀬が迫り何かとお忙しい中、都市計画マスタープラン策定委員会にご出席を頂きましてありがとうございます。

皆さま方には日頃より町政の各派に渡りましてご理解、ご協力を頂いております事をこの場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げる次第でございます。

昨年の11月に皆さま方に委嘱状を交付させていただきました。2ヶ年にわたる見直しでありましたけれど、この中標津町の将来の都市像について真剣にご議論を頂きまして誠にありがとうございました。

今回の見直しの策定も、ここにおられます小林先生の基調講演を皮切りにワークショップを何回も開催して頂き、そして高校生ともワークショップを行って頂きまして、町民の皆さんと共に議論した中で、策定委員の皆さまにも貴重なご意見を頂きました。本日も素案がまとまったものとお聞きをしております。まちづくりの在り方として、町民の皆さまが主人公であると、官民協働によりまちづくりを行う事が今後必要になってくるのであらうと考えている所でございます。

この都市計画マスタープランがまちづくりの手引きとなる事を願っている所であります。そしてまた、この計画を『絵に描いた餅』という事にならないように、今後確実に実践されるように期待をしたいと思っております。

それと小林先生には平成13年度に策定した都市計画マスタープランから関わって頂いております本当にありがとうございます。先生のご助言もあり、既に中心部ではまちづくりに対しての議論が活発にされている動きもあり、今後の地域の活動、動きに楽しみをもっている所でございます。それと明治大学の山本教授におかれまして中標津町の都市マスに関わって頂きまして、大変お忙しい中、遠方よりお越し頂きまして、先生が専門とされております『安全・安心』の視点から沢山のご意見を賜りましてありがとうございました。また委員の皆さまにも自分たちの町、今後の在り方を真剣に考えて頂きまして、積極的なご意見を頂きまして本当にありがとうございます。今後中標津町を暮らして楽しい中標津という風にまちづくりを進めるために今まで以上にご協力を頂きたいと、こんな風にお願いを申し上げます。

最後になりますけれど、2ヶ年に渡る都市マスの見直しとなりましたけれど委員の皆さまのご協力に感謝を申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。大変ありがとうございました。



挨拶 小林委員長

社会資本という言葉があります。それはその地域にどれだけたくさんお金があるかという意味ではなく、その地域に住んでいらっしゃる方、生活されている方、生業を立てていらっしゃる方、或いは企業、それから行政、そういうものが合わせてどれだけその町を、その地域を担って運営していく力があるかという事を、

そういった力の事を社会資本という訳です。今町長が仰ったように10年前からお付き合いさせて頂いていますが、その当時に入ってきた印象と、今皆さんとお話をしながら感じる現在の中標津町の社会資本という部分は随分違いがあるなというのを実感しました。これから色々大きな問題、中標津町だけでなく社会全体で大きな問題を抱えると思うのですが、他の町に比べて中標津町が持っている社会資本の力というのは随分大きいと感じますので、こういったマスタープランを一つの拠り所にし



ながら、町民全体、行政も企業も一緒になりながら自分達、それから子ども達のための町を更に質の高いものにしていくというある意味宣言文であると理解しながら、このマスタープランをおつくりになられたんだと私は思う訳です。あとは行政がつくったんだから行政でやりなさいという話ではなく、みんなでつくり上げたものですから、自治会或いは町内会、或いは企業や団体そういうものも加わりながらどういう風にして着実に少しずつこれを実現していくのかという事を含めて協議の方を更に進めていって、出来たら終わりではなく、どうやって実現していくのかという事を日々議論して頂くような事を忘れないで思ってもらえれば有り難いと思いつつ、今日も活発な議論をどうぞ宜しくお願いいたします。

- 第6回策定委員会会議 次第 -

1 開会

2 議事

(1) 前回策定委員会以降の取組経過

・第5回策定委員会(11月9日)

内容：テーマ別の具体的実施施策

都市整備の基本方針

地域別の具体的実施施策

・第4回地域別のワークショップ(11月18日)

内容：地域まちづくりの推進方策

・第10回庁内推進会議(12月7日)

内容：地域全体の都市づくり構想、地域別の街づくり構想

計画の実現・推進のための方策

・まちづくり交流広場(12月12日)

内容：パネル出展

事務局より資料に基づき説明

(2) 検討事項

・地域全体の都市づくり構想、地域別のまちづくり構想

・計画の実現・推進のための方策

事務局より資料に基づき説明

(3) その他

3 閉会



- 主な意見 -

○全体の都市づくり構想と各地域のまちづくりとの整合について

- ・地域別案のいいアイデアを全体の都市づくり構想の中に反映させ計画の整合性を検討した方がいい。

○言葉の意味を意識した文章の整理を

- ・『環境首都』『農都共生』『田園都心』など、言葉の響きから広がりを感じるが、もう少し意識するなら、文章の各所に入れていくとよい。

- ・『中標津型地域コミュニティの構築』は、何をどうしたらいいのか具体的なイメージがしづらい。

○不安を煽るような言語表現の再整理を

- ・『安全安心なまちづくり』は、犯罪が多様化して複雑化して巧妙化して、大変危ない所だという印象がもたれる。

実際安全性は高まっているが、まだ不安が続いているという文面にしていくことがよい。

- ・町民の不安を煽る文章がちょこちょこ出てきている。



○水と緑の環境方針のなかに格子状防風林のことを記した方がよい

- ・北海道遺産に指定された格子状防風林は環境首都としてふさわしいという感じがした。水と緑の環境方針の中にきちんと書いておく事が必要だと思う。

○楽しみながらまちづくりをしていこうと思え、具体的な魅力を感じられ、心温まるような「情」の表現や工夫を

- ・毎日の生活や仕事でやりにくい、規制が多い、厄介と感じないような、楽しみながらまちをつくっていく事が裏の方にしっかり潜まれていると、小さい規模だけれど楽しみながら長続きするまちづくりに繋がっていく。

- ・『魅力的なまちづくり』『魅力』という言葉が沢山出ているが、具体的に魅力が何かというのが感じられない。

- ・人によって魅力の内容も変わってくる。少し交流の広がりを意識すると魅力の内容がよりわかりやすくなる。

- ・文章の裏に広がりを持つという心温まるような配慮があれば良い。

- ・こういう計画は理屈で作られるものが多いが、町民に「なるほど、自分もやってみよう」と思って頂ける「情」の部分が必要だと思う。文章で書くという事は、なかなか難しいが、理に加えて情がある報告書というのは成果物として大切な事で、それは多分今回でいうと写真を入れるしかないのかなと思う。

○まちなかに人を呼び戻し、屋外に多くの人の目を用意して安全・安心なまちづくりを

- ・『安全安心なまちづくり』は、まちなかに人を呼び戻し、賑わいを創り、屋外に多くの人の目を用意し、バリアフリーを進め、高齢者や障がい者の外出の促進をし、安全・安心をつくっていく。それが中標津の環境首都としての戦略的なアプローチかと思う。

○町内会活動だけでなく企業・団体・NPO 等も含んだ情報交換の機会、拠点が大切

・『町民のまちづくり活動を促進する拠点の強化』に関しては、実際には町内会だけではなく企業・団体・NPOもそれぞれまちづくりに真剣に取り組んでいるので、それらも含めていくのがよい。また、施設を建てないとかできないのではなく、町内会相互、各種NPO・企業・団体が取り組んでいる活動内容をお互いに知り合う情報連携という機能が大事。

○『改定前の都市マスの残した主要課題』にある は何を意味しているのか

→ 前回の都市マスをどこまでできたのかを の数で整理したもの。分かるように意味を追記する。

○ゲートウェイ空港の「ゲートウェイ」の意味はまちの機能をトータルで考えるもっと広い意味があるので

は
・ゲートウェイとは単に玄関口という意味だけか。まちの機能、全体の機能を指してトータルで考えるゲートウェイというような意味合いで伝わったのではないかと思う。

○交流の機能をトータルで充実させるということを考える必要があるのではないか

- ・交流の機能をトータル的に充実させるという言い回しがあまりないように感じる。戦略的プロジェクトになるかもしれないが、考えておく必要があると思う。
- ・中標津町の空港の近接度のポテンシャルの高さの環境を活かし戦略的にどうしていけば良いのか。環境という事を背景にしながら、居住性の優越度があり、食の魅力というものがあり、それらを合わせながら街並みを作っていく事が必要ではないか。

○丸山公園を避難所として位置づけて問題はないか

- ・丸山公園の箇所の避難所は、危機管理面を踏まえると川のそばに避難所を設けても大丈夫なのでしょうか。
- 地域防災計画に記されている避難所であるが、今後、本当に妥当な場所か検討していく必要性はあると思う。火災時などの一時的な避難場所としての役割もあるので、どういう役割があるかを脚注などに書き記す。

○地域の人たちみんなが一緒に参加できる、気軽に参加できる工夫のあるまちづくりが必要

- ・運動会、収穫祭、餅つき大会など、普段から地域で集まれる行事などをやっている、みんな集まってきて、周りがみんな参加できるようになってくる。

○都市マスの思いがつづられた前文があると良い

- ・憲法に前文があるようにマスタープランの前にも前文があっても良いと思う。町長の言葉なのか、委員会の人なのか、そこに想いというものがあり、都市計画マスタープランというのが環境首都として千年先の未来まで続くように色々な人たちと交流を深めていって、企業なども含めてやっていくんだというようなものが少しでもあると良いと思う。

○地域、企業、団体、NPO が連携して進めていけるような体制が必要

- ・町内会だけでやっている、町内会の負担も増える。企業、NPO、ボランティア団体、よそから来ている人も入ってこれるような体制、或いはそういう余地を残していくようにして頂きたいと思う。
- ・町内会だけではなく色々な要素の人が集まる『中標津カップリング』というものを考えると良いと思う。

○商業、観光がこう伸びていきたいという部分が欲しい

- ・こうあったらいいというウォンツの部分は、よほど楽しいか、商売が絡んでないとできないと思う。今後の中標津町の役割を考えると、活性の高い町であって欲しいし、商業、観光が伸びて行って欲しい。どんどん誘致して活性化して欲しいですし、その部分のまちづくりという事を若者としてはもう少しあって欲しい。

3. 開会 栗崎副委員長

栗崎副委員長：昨年 11 月 1 日付けで委嘱を受けた私たちでございました。正直言いまして丸一年この事務局を中心に精力的に活動してきたと思います。特にこの事務局を中心にこれだけの会合をこの町の中でやったというのは精力的という言葉に尽きると思います。

今回私が感じているのはこの場限りではなくて、総合計画の方にも関わってまして色々な計画を組んでいくところに参加させて頂いて少し思っている事があります。最近、NHKで坂本龍馬をやったり坂の上の雲をやったりしているのは一体なぜなのかなと思うんですね。なぜNHKが今どきああいうものをやるのかと。

今日本の国の中が混沌としている状況にあって、政治も経済も、混沌としている中であの 33 歳の龍馬は、国を変える事に取り組んだ訳ですね。そういう凄さというものを私は感じるし、坂の上の雲の 3 人の壮絶な生き方みたいなものがかつての日本人の良さとして持っていた。ところが公論を読んでいると、そういった人間は出てこないかなというような事が盛んに書いてあります。確かに救世的なものが欲しいなという感じがしない訳ではないんです。カリスマ的な人が出てきて、どうにかならないかなという気持ちが起きたりもします。実はもう一つこの町に新しくできたもので中小企業振興条例というものができました。その審議委員にも私はなっています。そちらの会議に出席して思ったのは、この前も少し話があったのですが、このマスタープランや総合計画とかそういう振興条例とかというものを色々作っているのはなぜなのかというと、いざ私たちの世の中が動いていく時に方針や目標をきちんと物差しとして持っていないと、この町がどういう風に歩いていったらいいかわからなくなってしまう。そういった意味でこれが全て実現するとか実現可能だとかという事ではなく、常に目指す何か柱みたいなものがこの町には必要なんだという事ではないでしょうか。そういう風に私は理解しています。ですから最近の話題でいうと、ニセコの町に外国資本のリゾートがくる訳です。ああいうものがきた時に一体町はどういう体制で受け止めるんだろう。大資本ですよ。そして別荘地みたいなものを大規模につくる訳です。様相が一変すると思います。そんな形で我々が一生懸命審議している所へ、もし中標津にこられたらどんな事になるのかななんて、思いながらニュースを見ていました。経済というよりも大資本の恐ろしさみたいなものも実はあるのではないのでしょうか。

そんな事も感じていて、最近の世の中を見ているのが正直言って少し苦しいんですね。

話を戻しますけれど、私の座右の銘なんですけど、実はこれは親鸞の話なんですけれど、最近五木寛之が盛んに親鸞を書いていますけど、吉川英治という小説家が書いた親鸞のなかに「魚は川の中に住んでいるよな、ところが悠々と流れている大河の源と果てを見極めるためには魚の目で見てもたのでは見えないよ」そういう言葉を親鸞に慈円という先生が教えた訳ですね。そういう意味で私はずっと学校の教員をやってきましたけど、それをいつも銘にしていました。それはどういう事かということ、遠い所で話していても常に自分が別なところに視点をおいて皆さんの議論を聞くと、そうすると色々な事が見える。その中にいて魚の目ばかり追い回していたのでは先が見えないんですね。その事を私は小林先生と山本先生に本当に高見から色々な意味で様々な示唆を頂くというのはものすごく今回は嬉しかったです。

以前、町で高校生の殺人事件があったとき、その事に基づいて中標津に住みよいまちづくり教育ができたので、その時からずっと委員会の開催をやっていたんですけど、私の主張は今の高校生や青年達がどうい

社会構造の中でどういふように情報社会の中で生きているのかという事も、私たち親であっても大人であってもなかなか見えないなと思っていました。それを是非とも小林先生や山本先生のような先生方にきてもらって、高見からずっと分析してもらおうよという話をした事があるのですが、その時は残念ながら私の会はその呼んだって意味ないよと言うような事を言われたんです。私は常に井の中の蛙では困るので、そういった観点から高い所からものを見て色々ご指導頂くというのは、大変大事な事なんです。そういう意味でお二方、大変長期間にわたってご指導頂きましてありがたかったなとまずお礼を申し上げたいと思います。

それから同じくC I Sの方も本当にありがとうございます。皆さんの協力があったからこそここまで来たんだと思います。私たちは好きな事を言っていればいいような感じで来ましたので、それをまとめて頂いたという事では大変良かったなと思います。従来皆さん方、さっき吉田委員が、昔の色々な事を話していましたが、やはり時代がものすごく変わっちゃったんですね。教育も悪いのかもしれない。だけど本当に私はこの世の中がいつの間にこんなになっちゃったのかという感じがするのです。いつの間にか蛙が茹で上がっちゃったんですよ。どんどん温度を上げられていつの間にか気がついたら自分が身動きができないくらい熱いお湯の中にいたという感じがしてならないんです。世の中ってそういう風にして進んでいくものですから、こういう指針を作ったり、計画を作ったりしながら私たちの営みを確認していく事が大事なんだなという事を今回感じさせて頂きました。

そういう意味でこの委員の一人にさせて頂けたという事は本当に私はありがたかったと思ってこの一年過ごさせて頂きました。もちろん事務局はものすごく精力的に動きました。見ていてわかりますけれど、議事録一つ作るにしてもあれだけのものを作るとなると大変な事なんですね。だけど議事録の中身を見ましたら本当に小林先生をはじめとして、ものすごく大事な事をいっているんです。読み返してみるとかなり大事な事を言ってくれているんです。これからもこれをスタートとして私たちも勉強していきたいなと、そんな事を考えてせっかくこうやって仲間になれたんですから、こういった機会を大事にしながら生きていきたいなと思いました。最後に皆さまにありがとうございましたという事でこの会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

事務局：栗崎副委員長大変ありがとうございました。

それでは二年間にわたりまして委員の皆さま方に何の気配りもできなかった私たち事務局でありましたけれど、お付き合いして頂きまして、そしていろいろご迷惑をお掛けいたしました但皆さまのご協力を頂きまして無事計画策定の案が出来あがりました。本当にありがとうございました。

今後見直しをしまして、新しい都市マスのスタートが始まっていきますけれど、委員の皆さま方には都市マスを推進する中で何かお気付きの点、そしてどんな事でも結構でございますのでご意見、ご助言を頂ければ大変光栄でございます。

それではお帰りの際はくれぐれもお気をつけてお帰り下さい。本当に長い間ありがとうございました。